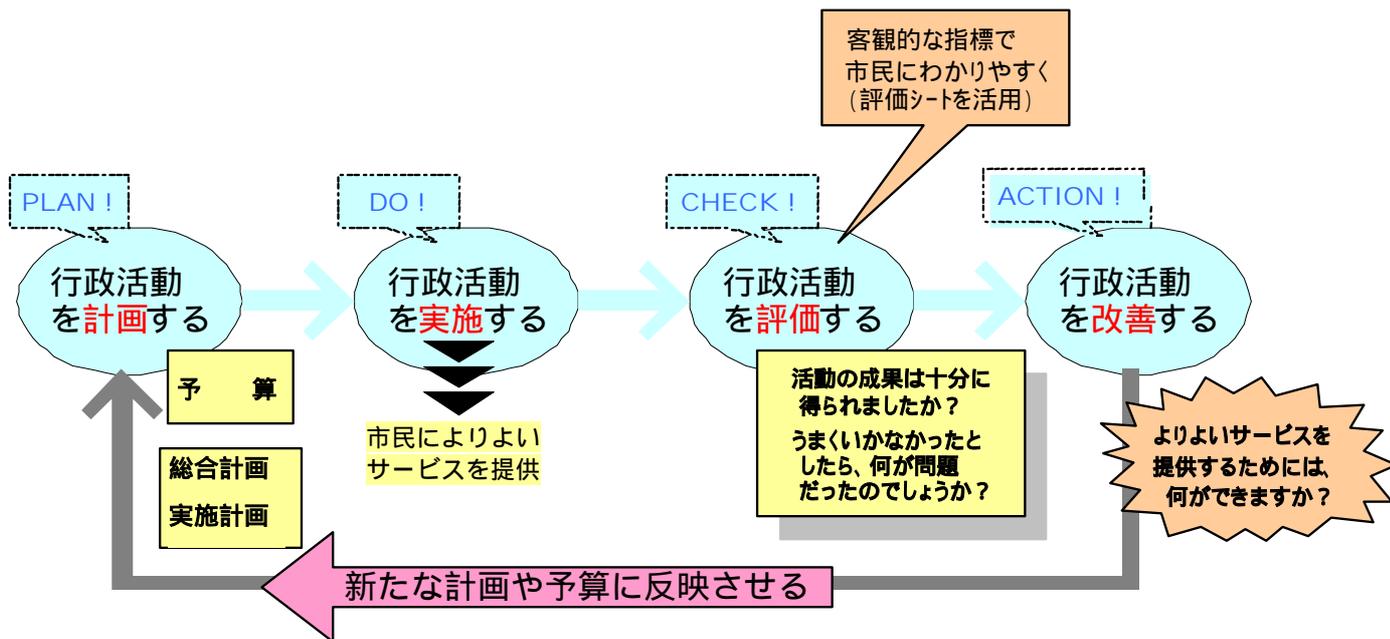


蕪崎市の行政評価システム

1 行政評価システムとは？

行政評価システムとは、行政機関の活動(注)を何らかの統一的な視点と手段によって客観的に評価し、その**評価結果を行政運営に反映させる**ことです。

注)活動：予算や人件費が必要となる内部管理事務や事務事業、施策であると定義できます。



評価とは、行政の活動の結果、どのような成果があったのかを振り返り、うまく成果が現れなかったときには、何が問題となっていたのか、を分析することです。そして、評価を通じて職員の一人ひとりの考える改善策を「予算」や「総合計画実施計画」に反映させることによって、市民により良いサービスを提供していきます。

●行政評価に取り組む背景には？ 行政を取り巻く環境変化

三位一体の改革による国の交付金等の減少により市の収入は減少し、一方で市民ニーズはますます多様化しています。行政がより良いサービスを提供するためには、効果の高い「活動」を効率的に実施することが必要です。行政評価とは、職員の一人ひとりが、行政の「活動」が期待する成果を産み出すことができたかを事後的に確認するための手法です。

2 蕪崎市の行政評価システム導入のねらいは？

- (1) 成果志向の行政サービスを提供するため、
行政活動の成果を測る基準をつくります。
- (2) 市民がパートナーとして市政参画が可能となるために、
行政情報を共有化します。
- (3) 行政サービスを提供する職員の意識改革を促し、
職員のコスト意識を醸成します。

成果志向の事業再編と効率性

市の仕事(役割)は、市民や企業が納めた税金を基礎的財源(資源)とし、都市基盤整備をはじめとするまちづくりに取り組み、市民福祉の向上を目指すことです。

しかし、**財源には限りがあります**。他の市でできたことが本市ではできない場合もあります。財源の範囲で、その市にとって本当に必要なサービスを提供することが求められています。

市民のためになることを、少しでも多く実施するためには、最大の成果を最小のコストで実現する方法を考えなければなりません。そのためには、効果の高い事務事業により多くの財源を配分すること**(どの事務事業にいくらの財源を配分することが効果的か?)**や、より大きな成果が得られるように効率的に事務事業を実施する方法**(どのように事務事業を実施すれば効率的に成果が得られるか?)**を考えなければなりません。

そのために、行政評価システムを活用します。

どのように行政情報を共有化する？

市が実施する事業や事務について、

「誰(何)を**(事業の対象)**、どのような状態へ導くのか**(成果)**」、

「そのために何をするのか**(活動内容)**」、

活動に要した**「コスト」**を明確にします。

さらに、「活動」、「成果」、「効率」の視点から、

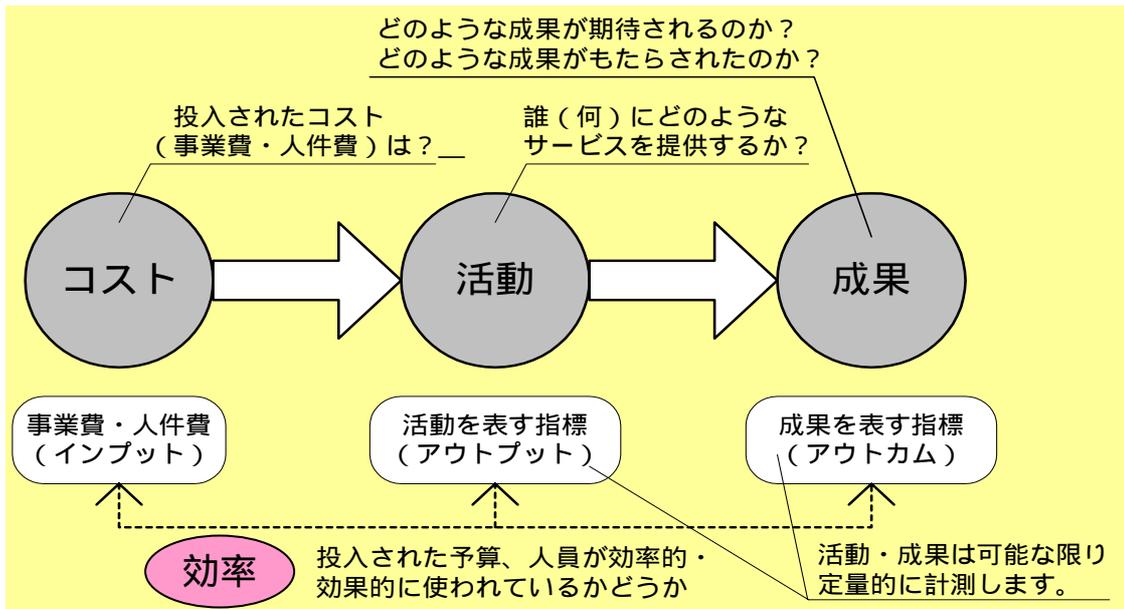
それらの実績を計測するための**「指標」**、

指標(実績値)に基づく**「自己評価」**、

今後の事業展開に対する**「改革改善案」**など、

これらのデータをオープンにします。

これらの情報を通して、市民の皆さんと「どのような活動にどれだけのお金を使っているのか」を考えていくことが**最初のステップ**だと考えます。



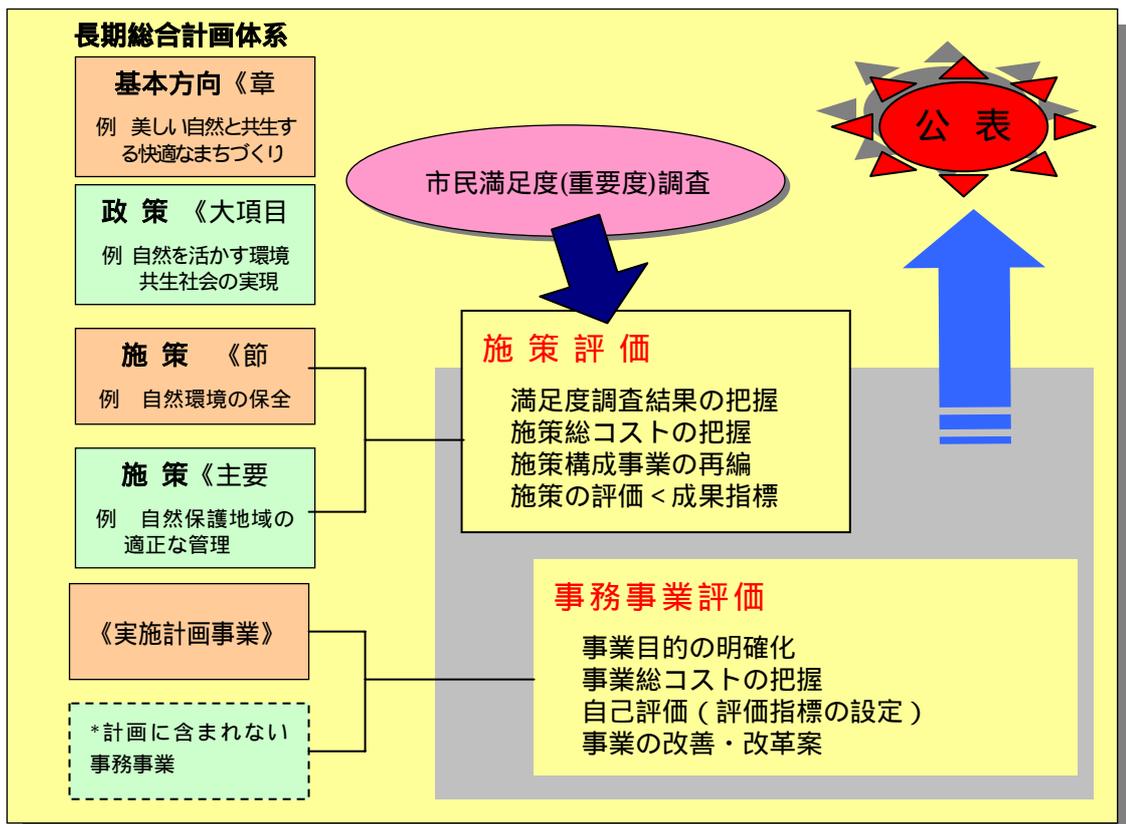
コスト意識の改善

事務事業にかかる費用は、予算として計上される分だけではなく、事務事業に携わる職員の人件費や借入金も税金等で賄われているわけですから、当然、限りある財源として意識しなければなりません。事業費は人件費などを含めた費用がコストとなります。

事務事業にどれだけのコストがかかっているか？

効率性の改善は、まずコストの把握から始まります。

3 韮崎市の行政評価システムの概要



事務事業評価

蕪崎市では事務事業評価を毎年、実施しています。

< 評価の視点 >

妥当性(施策への貢献度、公的関与の必要性、手段の整理)

成果(意図した成果、更なる成果向上)

効率性(コスト改善の可能性、受益者負担)

事務事業の妥当性および予算・人員が「事業成果」を得るために、効率的・効果的に使われているかを検証します。

評価結果や改善策を、次年度以降の予算編成に反映させます。

施策評価

蕪崎市では施策評価の手法を検討しています。

< 視点 > 施策の目標達成のために有効な事務事業はどれか、重複する事務事業はないかを見極めを行います。

施策に対する「市民満足度(重要度)調査」結果を評価指標の一つとして活用します。

評価は施策間の財源配分を見直し、長期計画のローリングに反映します。